

「若手研究者支援 2 次募集」国際学会発表	
辺縁労働群体的生計困境と対応戦略—以湖北省茶県職業技能受訓者為例（周縁化された労働者の生計困難と対応戦略——湖北省茶県における職業技能訓練受講者の事例分析）	
氏名 YU LE	所属 ジェンダー学際専攻 博士後期課程 3 年
期間	2025 年 9 月 27 日 ～ 2025 年 9 月 28 日
学会・分科会名	「新しい時代における日中社会学の新使命」国際学術シンポジウム
場所	北京市海淀区西三環北路 2 号北京外国語大学 日本学研究センター内
発表者名、発表形式	YU LE、口頭発表

1. 本学会発表の目的・意義

本発表は、「周縁化された労働者」—(1)重労働による身体的損傷で都市での肉体労働を継続できなくなった第一世代出稼ぎ労働者、(2)家事・ケア負担やライフコース上の制約から持続的な出稼ぎが困難な農村住民・女性—が、不安定化する都市雇用環境の中で就労継続が一層困難になっている現状を明らかにする。地方政府は帰郷者や農村在住者の地元就業を促進すべく、男性向けのドローン操縦・ライブ販売、女性向けの介護・家事労働といった職業技能訓練を展開してきた。しかし、内陸部の県域では脱工業化により雇用機会が構造的に不足しており、訓練を受けても安定した就業にはつながりにくい。仮に就業できても賃金は低く、都市化の進展や次世代教育費の高騰のもと、農村世帯の生計は依然として持続可能性を欠いている。

その意義は以下の三点にある。第一に、地域振興政策や「地元就業」政策が想定する労働力像と、実際の周縁的労働者の生活実態とのズレを照射する点である。第二に、ジェンダー化された訓練内容の割り当てが、農村部の労働市場および家族内役割の再編とどのように連動しているのかを検討することで、農村社会の再生産構造を批判的に捉え直す視角を提示する点である。第三に、技能訓練を通じた「生計の持続可能性」向上が制度的・構造的にいかん制約されているのかを解明することで、地方部における雇用政策の限界と課題を理論的・実証的に示す点である。

2. 発表で得られた成果と今後の展望

発表や討議を通じて日中社会学における最新の研究動向を把握し、とりわけ労働・移動・生計再編に関する研究が両国でどのように発展しているかを学んだ。これらの学術的知見を背景に、私自身の「内陸部農村における周縁化された労働者」研究を地域間・国際間比較可能な議論へ接続する視座を獲得できた。

また、農村問題が社会学の主要テーマである一方、ジェンダー視点から農村労働や生計再編を捉える研究は限られている。本研究はそのギャップを埋めるものとして、(1)受講者のライフヒストリーと世帯の資源動員戦略を追跡する縦断的分析、(2)県域の労働市場構造と家父長制的資源配分の再編を接続する理論的検討、(3)職業技能訓練政策とジェンダー不平等の再生産過程に関する比較研究へと発展させる。こうした分析を深化させることで、内陸部農村社会における生計の持続不可能性の構造的基盤をより精緻に提示し、中国農村研究およびジェンダー研究の双方に寄与することを目指す。

加えて、本学会での発表経験は、国際的な議論に参加し、多分野の専門家との学術交流能力を培う貴重な機会となった。会場で知り合った研究者との間では、来年度以降の海外での共同発表も企画している。

ヨ ラク／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 ジェンダー学際研究専攻